

第2回府中市高齢者保健福祉・介護保険事業計画策定委員会議事録

■ 日 時：平成17年7月14日（木） 午後1時15分～3時30分

■ 場 所：府中市役所 北庁舎3階 第3会議室

■ 出席者：（五十音順・敬称略）

<委員>

青木八重子、吾妻裕、石渡禎子、板山賢治、川口宣男、川又協子、島村八重子、鈴木恂子、田口俊夫、中島豊春、野島征三、能勢淳子、和気康太

<事務局>

福祉保健部長、福祉保健部次長、高齢者福祉課長、地域支援担当主幹、高齢者福祉課長補佐、高齢者福祉課介護支援係長、介護保険課長、介護保険課長補佐、介護保険課事業計画担当主査

■ 議 事 1 開会

2 傍聴者の入場

3 議題

（1）府中市高齢者等の実態・意向アンケート調査結果について

（2）高齢者施策・介護保険の実績について

（3）計画の理念・体系について

（4）第1回空間整備計画小委員会の報告

（5）次回日程について

■ 資 料 資料1 府中市高齢者等の実態・意向アンケート調査結果の概要

資料2 府中市における高齢者保健福祉施策の目標・実績・達成度

資料3 第2期介護保険事業計画の実績の分析

資料4 府中市高齢者保健福祉・介護保険事業計画の現状と方向性のまとめ（案）

資料5 府中市高齢者保健福祉・介護保険事業計画の趣旨等について

資料6 府中市高齢者保健福祉・介護保険事業計画の体系図（案）

参考資料 2015年の高齢者像

1 開会

- ・前回欠席した委員の自己紹介（委員2名）

2 傍聴者の入場

- ・6名の傍聴者が入室

会 長：では、これより第2回府中市高齢者保健福祉・介護保険事業計画策定委員会を開催する。5月11日に第1回委員会を開き、この2ヶ月あまりの間に介護保険制度改正法が国会で成立し、一部が10月から施行される。今回の策定委員会はアンケート調査、市の実績などから市民が考えていることを把握していく。

3 議題

(1) 府中市高齢者等の実態・意向アンケート調査結果について

(生活構造研究所より、資料1について説明)

委 員：クロス集計はいつ出るのか。

事 務 局：8月の中旬頃を目標にしている。

会 長：こういう集計をしてほしいという意見があればどうぞ。

委 員：居宅介護支援事業者調査の新予防給付の参入意向について、「興味があるが、参入は今後検討したい」を『参入意向あり』としてまとめるのは少し乱暴ではないか。興味があるのと参入したいというのはイコールではないと思う。

委 員：事業者はサンプル数が45と少なく、回収が40で100%回収できなかったもので、期待していただけに不満が残る。

事 務 局：45事業者には協力をお願いをしたり、督促をして回収を100に近づける努力をしたが、このような結果になった。

委 員：P12の地域密着型サービスについて「わからない」という回答が多いのは、市民にまだ浸透していないということか。わからない人とわかっている人では回答の信頼性が異なるのではないか。

会 長：市民への質問としてはまだ早すぎたのだと思う。行政の人しか知らないで「わからない」が多いのは当たり前である。結果は参考にしながらつっこんだ分析が必要だと思う。

副 会 長：回答の信頼性の質問は、専門用語でフィルター・クエスチョンとあって、例えば、介護保険について知っている人と知らない人では、知っている人の回答は信用できるが、知らない人の回答はあてにならない。その場合、知らない人を外して分析を

することができるので、集計の際にお願いしたい。

会 長：回収率が大変高く、市民の意識が高いことが伺える結果となった。

副 会 長：サービス未利用者が認定を受けても使わないのは、特別な理由があるというよりも、まだ健康だから必要ないし、家族でできるから、という人が多いと改めてわかった。要介護度別のクロス集計がみたい。

(2) 高齢者施策・介護保険の実績について

(事務局より、資料2～3について説明)

委 員：1点目に、資料2の高齢者保健福祉施策に関連して、平成15・16年度のトータルの決算額と平成17年度の前算額を教えてください。2点目に、高齢者保健福祉施策の中からどういった施策が介護保険事業計画の方に入っていくのか。3点目に、資料3、介護保険事業計画の実績P4、全国、東京都に比べて府中市では支給限度額に対するサービス利用率が低い原因は何だと思いか。

事 務 局：1点目は、表にまとめてご提示する。2点目については、一般施策としてこれまで通り取り組むため、介護保険への組み込みはないと考えている。3点目は、支給限度額については細かく分析していないが、近似値の範囲ではないだろうか。支給限度額いっぱい使うのがよいのではなく、その人にあったケアプランをつくるのが重要なので、利用率が高い方がよいということではない。ただ、受けたいサービスが受けられないという状況があれば、それはよくないと思う。

会 長：吾妻委員の質問は核心をついていた。予算は市政が端的に現れる部分なのでまとめてほしい。

副 会 長：資料2について、3年前の計画に加わった事業はあるのか。

事 務 局：地域支援事業の介護予防で介護予防ケアマネジメントに取り組むが、平成17年度から在宅介護支援センターに1名ずつ介護予防コーディネーターを配置している。また、平成16年度から第六地区で高齢者の見守りネットワークを開始し、平成17年度から全市で展開している。

(3) 計画の理念・体系について

(事務局より、資料5・6について説明)

委 員：資料6の目標1は「利用者本位」ではなく「利用者主体」ではないのか。同じ意味だとは思いますが、主体の方がよい。

事 務 局：言わんとするところは同じだと思う。利用者本位というのはサービス提供側の視点だと思う。

- 副 会 長：「社会福祉基礎構造改革」で使われていることばで、前回の計画策定時にも同様の議論をした覚えがある。その時は国が使っているので使った。
- 会 長：前は、府中市の計画なので供給サイドに立った表現で整理した。今回もこのままでよいのではないか。体系図で網のかかっているところは変更したところである。介護保険と高齢者保健福祉のまとめ方についてはいかがか。
- 委 員：介護保険は「利用者本位」から始まっているので本位がよい。
- 委 員：「利用者本位」がトップに揚げられているのがこの計画のすばらしいところだと思う。その趣旨は貫きたい。
- 会 長：体系図についてぜひ考えてきてほしい。
- 委 員：団塊の世代がいかに地域へ軟着陸するかということが問題になっているが、この計画ではその辺に視点を置いたことは入らないのか。
- 会 長：この3年計画には入らない。ボランティアの活用ということで入れるのはよいと思う。
- 事 務 局：団塊の世代については2015年・2025年問題というのがあり、高齢者人口が2015年には3000万人、2025年には3500万人になると予想されている。ある程度その辺を見据えながら計画をつくりたいと思う。
- 委 員：目標4に「生きがい活動への支援」、「就労支援」があり、生涯学習の一環で取り組む部分と保健福祉で取り組む部分の接点があるところがある。周辺領域の部分についての整理が必要だと思う。
- 会 長：必ず周辺施策の問題は出てくる場所である。市としては総合調整をどのようにしているのか。
- 事 務 局：極力、他の領域に足を踏み入れていきたい。生涯学習のスポーツ分野で、地域会館の活動者におたっしや健診のさわりの部分を受けてもらっているので、総合的に取り組んでいきたい。計画にも差し支えない程度に盛り込んでいく。

(4) 第1回空間整備計画小委員会の報告

(副会長より報告)

- ・日常生活圏域は従来の地区割りを踏襲し、6地区とする。
- ・地域包括支援センターは市の直営で1ヶ所設置する。

(5) 次回日程について

第3回策定委員会は、9月1日(木)午後2時30分～

第1回介護予防小委員会は、7月19日(火)午後1時15分～3時15分

以上